

研究課題	日本近世武家社会における学芸と学知の形成と継承				
氏名	綱川 歩美	所属	社会科教室	職名	特任准教授
APRIN e-ラーニングプログラムの受講 <input checked="" type="checkbox"/> 受講済の場合はチェックをすること					
【研究成果の概要】 （文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度）					
<p>本研究は、丸亀藩士の妻となった井上通（1658～1737）に関連する史料を発掘し、通の江戸での奉公や、和歌・その他の文芸での交流、さらには子弟教育のあり方について明らかにすることを目的として掲げていた。</p> <p>まず、史料調査における成果について言及する。これまで、井上通に関する史料は、主に日本文学の面から、歌論や紀行文を中心に関心が持たれ、研究が行われてきた。通個人の能力を際立たせ、近世前半の文学世界の女流歌人・女流作家としての位置付けを強く打ち出したところに一つの主眼があった。それ自体は間違いではないが、通が生活した「家」や藩（「奥」の世界）があったことを前提に、本調査では通自身とその周辺の史料を含めて調査した。結果、丸亀市立資料館では『井上通女全集』に収載されていない、和歌や漢詩の軸の存在を知ることができた。さらに、香川県立文書館では、通の歌集や刊行された全集の一部などを得た。これらの歌集には、通だけではなく彼女と交流のあった人物の作品が収められており、通の周辺に存在した文化的環境を明らかにできる史料である。これらの史料を得たことは本研究の一つの成果である。</p> <p>また、通の息子である三田義勝に関する史料をもとに、彼の記述に登場する母・通についての分析を進めた。丸亀藩の儒者として活躍した義勝にはいくつかの著作があり、それらの中で度々母からの教えについて言及している。それは母から息子へと教授される学問の系統とその影響を想像させるものである。丸亀藩士の「家」、つまりは武家の内部で展開される「家庭教育」の存在があり、そこに関わるのは父だけではなく母の存在も大きいことを意味しよう。さらには、先に通の歌集をはじめとし、和歌を通じてつながる交友関係も、女性だけではなくその夫や父、娘や息子たちといった家族を含むものである。これらの「家族」もまた藩士や幕臣らの武家を中心としており、同等レベルの文化的力量を共有する「家」単位のつながりがあることを彷彿とさせる。</p> <p>そしてこれらの武士階層の「家」が学芸・学芸として儒学や神道、和歌を学ぶことが、近世社会の学問受容の広がりの一コマであるとともに、その広がりの中で起きる問題点を浮かび上がらせることに繋がるという展望を得ることができた。具体的には義勝の著作『養子訓』や、義勝の師であり通とも和歌をやりとりした跡部良顕の『日本養子説』から、学問受容の特質を分析した。そこに表れる特質が、既述の武家階層の「家」の中で育まれたものであり、結果として儒学の原理的な側面を主張する専門的な儒者の議論と摩擦を起こすという状況を明らかにした。</p> <p>一方、史料調査のために現地に赴いたことは、通の菩提寺をはじめとして、旧藩校や学問所の位置を確認する実地踏査を合わせて行うことができた。丸亀城を中心に配置されていた当時の武家地・寺社地と、金毘羅社参詣で賑わった町の様子をよく想像することができた。通や義勝が暮らした場、また和歌や漢詩の題材となる風景がここにあることを改めて実感した。これも実地調査による大きな成果の一つである。</p>					
【研究成果発表方法】					
<p>上記の研究成果を差し当たり、論文の草稿（「近世前期、武家社会における儒学受容の一齣 闇齋学派の異姓養子論をめぐる一」）を大方完成しており、発表予定である。投稿先は学芸大学人文科学系の紀要を予定している。2024年度中に公開できるように準備を進めている。また、調査と研究で得た知見をさらに深め、いくつかの研究報告や日本史演習や概論などでフィードバックする予定である。</p>					

発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入すること。

本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。